看護かごしま
Nursing Kagoshima

Nursing Kagoshima

http://k-kango.jp

2021.Winter Vol.182

吉野町寺山公園より、朝日ごしの桜島を望む　　写真提供：的場浩二

◆年頭のごあいさつ …… 2
◆事業検討会・ファーストレベルを終えて …… 4
◆セカンドレベルを終えて・令和２年秋の叙勲 …… 5
◆特集新型コロナウイルス感染症第３弾（看護学校編） … 6
◆SDGs 普及事業に参加して …… 8
◆私のセカンドキャリア …… 9
◆地区だより …… 10
◆ナースセンターだより …… 13
◆理事会報告 …… 16

令和２年度鹿児島県看護協会会員数　保健師 454 人／助産師 394 人／看護師 11,031 人／准看護師 607 人／合計 12,484 人　令和３年１月 12 日現在

年頭のごあいさつ

「Nursing Now ！」を合言葉に

公益社団法人
鹿児島県看護協会会長
田畑　千穂子

新しい年を迎え、皆様に謹んでお慶びを申し上げます。

新型コロナウィルス感染症の拡大の中、全国の看護職が使命感や地域を守り抜く覚悟で昼夜問わず、ひた向きに看護に従事しております。本会は日本看護協会から「地域の医療提供体制確保のための看護職員の派遣調整事業」、鹿児島県から「看護師等養成所実習補完事業」を受託し、県や県医師会、看護学校等とともに情報共有を図りながら、看護職の派遣調整等に最善を尽くしております。

また、新型コロナウィルス感染対策が長期化する中、保健所機能の強化をはじめ、労働環境の改善や離職防止、新人看護師の卒後研修体制やメンタルサポートの強化等が求められております。世界の歴史的な時に、長いトンネルを走り続けている私達看護職は「Nursing Now !」を合言葉に、歩みを止めず、ケアの受け手の「想い」を喜びとし、ナイチンゲールの灯す光を頼りに出口まで支え合って参りましょう！

さて、ナイチンゲール生誕 200 年の記念事業の「Nursing Now キャンペーン」が、このコロナ禍により 2021 年 6 月まで延長となりました。この Nursing Now では、持続可能な開発目標（SDGs）に取組んでおります。本会は鹿児島青年会議所の主催で鹿児島市やユニセフ等 27 団体によるＳＤＧｓ普及事業に参加しました。ブースには新型コロナウィルス感染対策への看護職の活動紹介、看護職への応援メッセージを林檎の木に貼付し、子ども達へ「手洗いできるかな」のコーナーでは親子連れの小さな手の動きに多くの笑顔が集まりました。本会の研修会館に看護職への応援メッセージを掲示しておりますので、是非ご覧ください。

2020 年度の九州地区法人会の会議報告では、「2040 年を見据えた看護の在り方」「継続教育」の２つのテーマで議論されました。「疾患の有無に関わらず地域の人々の生涯に伴走し、健康増進・疾病予防から重症化予防まで関わる力を看護は持っている」などの意見もありました。今後、特別委員会が設置され、引き続き検討されます。また、国のデジタル化推進の中、厚生労働省は社会保障関連資格における制度を活用した「マイナンバー検討会」を開催し、看護職の就業者を含めた資格管理や研修履歴の活用等も含めた議論もあり、今年の通常国会でマイナンバー法改正による看護職の資格管理の実現が期待されます。

最後に、あらゆる場で求められている看護職です。日本がさらなる超高齢化社会となる 2025 年に歩みを止めることなく「看護の将来ビジョン」の実現に向け、県民の皆様のニーズに応えられる職能団体としてさらに貢献したいと考えております。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人
鹿児島県看護協会副会長
中重　敬子

令和３年　明けましておめでとうございます。

コロナ禍で明け暮れた昨年でしたが、今年もまだまだ、今までの生活様式や行動パターンを見直し、新たな発想で創造力を試される年になりそうです。それでも、私たち看護職は地域住民の健康問題を一刻も無駄にせず行動する対応力を備えております。鹿児島県看護協会は、看護職として活動される方も、復帰を考えている方も最大限の支援を致します。このような時期だからこそ、看護職に誇りを持てるように、さらなる実践能力を付けるための事業を展開していきます。皆様とともに歩んでいけるよう微力ながら一生懸命役割を果たしたいと思います。よろしくお願いいたします。

公益社団法人
鹿児島県看護協会副会長
林　恵子

新年、明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の勢いが止まらない今、会員の皆様のご苦労は計り知れないと思います。この厳しい状況下でも、施設内感染防止という重圧を背負いながら患者に寄り添い、安心安全な看護ケアを提供する方々の姿をとおして、「看護の力」のすばらしさを改めて実感しているところです。今年度も、マスク着用で隠れた笑顔を、心優しい言葉と温かいケアに代えて、届けてほしいと願うばかりです。

さて、副会長拝任１年目で、役割遂行までには至っておりませんが、“新しい生活様式” による意識の変化と同時に、協会も時代のニーズに即した運営のあり方を検討する時期に来たと考えます。抱負で申し上げた通り、当協会の活動が円滑に行われるよう、皆様の橋渡し役として活動して参りますので、今年もよろしくお願い申し上げます。

看護職に期待すること

鹿児島県くらし保健福祉部
部長
地頭所　　恵

新春を迎えるに当たり，謹んで新年のお慶びを申し上げます。

鹿児島県看護協会の皆様には、かねてから本県の保健・医療・福祉行政の推進に対し、御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

令和２年当初から新型コロナウイルス感染症は世界中に猛威を振るい、本県におきましても複数のクラスターが発生したことなどから、現在も県民生活のみならず、医療従事者の働く環境に大きな影響を与えています。そのような中、鹿児島県看護協会には、県の新型コロナウイルス感染症対策事業の実施に係る支援や不足する看護職員の派遣調整等に御尽力を賜っており、改めて心から感謝の意を表します。

県では、新型コロナウイルス感染症が拡大し、感染リスクと厳しい環境下で心身に大きな負担がかかる中、人命を守るため現場の最前線で献身的な努力をしていただいている医療従事者の皆様に、心からの感謝の気持ちとともに慰労金を支給するほか、医療従事者に危険手当を支給する医療機関に対して、その支援を行うなど、各種の取組を行っているところです。

今後も医療提供体制を確保するための取組に対し、引き続き皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

さて、人口構造の変化や在宅医療の推進、働き方の多様化など、看護人材を取り巻く状況は大きく変化しており、看護職員の就業の場は、医療機関のみならず、福祉施設や介護施設など地域社会の中で大きく広がってきています。特に在宅医療に係る需要は今後一層増加することが見込まれることなどから、本県においても、社会の様々な場所で高度かつ専門的な能力をいかんなく発揮できる、質の高い看護職員の養成・確保が喫緊の課題となっています。

県としましては、令和３年３月末までに看護人材の計画的かつ安定的な確保・育成に向けて「鹿児島県看護人材確保計画」を策定することとしており、関係機関と連携して計画の実現を目指すとともに、計画を踏まえて各々が自主的に看護人材確保対策の取組を推進するための基本指針として、引き続き人材の確保だけでなく、看護職員の資質向上対策等にも取り組んで参ります。

本県の医療提供体制を担う皆様方を支援していくことを通じて、県民の方々に対し質の高い看護が提供されることを心から期待しております。

看護職員の皆様がより一層活躍されることを期待しますとともに、鹿児島県看護協会のますますの御発展と皆様方の御健勝・御多幸を心から祈念いたします。

看護職に期待すること

公益社団法人鹿児島県医師会
会長
池　田　琢　哉

あけましておめでとうございます。コロナ禍のなか、例年とは異なる新年をお迎えのことと存じます。

看護職の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染の脅威の中で不安を抱きながらも、人々のいのちと健康を守るために献身的に取り組んでいただいております。心から敬意を表するとともに、感謝申し上げます。

さて、新型コロナへの対応を経験し、改めて痛感することは、県民の安心・安全を守るためには、地域医療・介護提供体制整備が不可欠であるということです。人口減少や高齢化が進展するなか、地域の実情に応じた体制整備を行うことが急務となっています。医療関係従事者のなかで、最大の担い手である看護職の皆様の力なくしては、地域を支えることはできません。現在、鹿児島県独自の取組として「鹿児島県看護人材確保計画」の策定が進められていますが、実効性のある看護人材の確保・地域偏在の解消につながることを期待しています。

看護協会には、看護職の魅力発信、未就業者・離職者の就業や再就業の支援などを通じて、人材確保に取り組んでいただいておりますが、私ども鹿児島県医師会にも協力させていただき、一体となって地域医療・介護提供体制を構築していきたいと考えております。

コロナ禍において新たな生活様式への転換が求められているなかで、鹿児島県医師会でも、WEBを利用して会議や研修会を行うなどIT化を推進し、働き方改革に取り組んでまいります。

多くの課題はありますが、医療・介護関係団体が一丸となって、引き続き安心して医療・介護が受けられる体制作りに取り組むことが重要です。未だ新型コロナ感染症患者が増え続けている状況ではございますが、ともに乗り越えていきましょう。

本年もよろしくお願いいたします。

事業検討会

令和2年12月12日（土）、鹿児島県看護研修会館において例年通り、会長はじめとした執行部、各地区長、職能委員長、常任･特別委員会委員長が参加し、令和2年度の中間評価と令和3年度に向けての課題及び事業計画についての検討会を開催いたしました。

今回は3階大研修室でソーシャルディスタンスを取り、一部 Zoom 参加を交えながら行いました。開始前に、日本看護協会 福井トシ子会長より電話での激励も受けるというサプライズもあり、士気が上がり、活発な検討会となりました。今後、出されたご意見を基に、令和3年度の事業を計画していきます。

認定看護管理者教育課程ファーストレベルを終えて

鹿児島大学病院
津之地　紀代子

このたび、私たちは令和２年度ファーストレベル教育を終えました。

新型コロナウイルス感染症への対応で、各研修が延期、中止となっている中、感染対策をとり、研修を挙行して頂きましたことに感謝申し上げます。

研修受講が決まり、先輩方に「楽しかったよ。楽しんでおいで。」と言われ、部署スタッフの応援もあり前期が始まりました。まだ、日中の気温は 30℃以上で、休憩中の換気が、当番の役割でした。開講日は、ヘルスケアシステム論で 2025 年問題について学び、自分が地域社会に無知であることを実感しました。そして、人材管理、質管理、資源管理、組織管理と学びを進める中で、今まで認識していなかった視点に触れ、難しいと感じるばかりで、先輩方の「楽しんでおいで」という状況とはかけ離れていくようでした。しかし、後期が始まってからは、講義を受けながら、前期に学んだ事や自部署の状況を結び付けて考えるようになっていき、学習したことが少しずつ身についてきていると思えるようになりました。

また統合演習では、はじめの頃は、「難しい、自分は大丈夫なのか」という気持ちでしたが、一緒に学ぶ仲間と自部署の課題を共有し、意見交換をする中で楽しさを感じるようになり、「もっと学びたい。もう終わってしまう、寂しい」と思うようになりました。

今では、前期のきびしい暑さは無くなり、肌寒さも感じる日もあります。貴重な学びの時間を重ねてきたことが感じられました。

看護管理者として、質の高い組織的看護サービスを提供するために、私達がしなければならない事をそれぞれ認識し、私達 64 名は、学び得た知識を各施設で実践していきます。

最後に、講師をはじめ、演習支援の先生方、研修中に支えて頂きました看護協会の教育担当の先生方、研修に参加させて頂きました自施設の皆様に心より感謝いたします。

これから、各施設で精一杯取り組んでいくことを誓うと共に、新型コロナウイルス感染症の早期の終息を願い、閉講の受講生挨拶とさせて頂きます。

認定看護管理者教育課程セカンドレベルを終えて

鹿児島大学病院
武　亜希子

令和２年度のセカンドレベル研修が９月１日より始まり、本日をもって、合計 183 時間の研修を終えることができました。コロナ禍において、自部署運営に後ろ髪を引かれる思いで、28 名が集いました。看護協会のご配慮により、著名な先生方の講義も Zoom で受けることができ、COVIT-19 対応では最前線の首都圏の災害管理を知る最大の機会をいただきました。また、日々、COVIT-19 対応で苦労する臨床の抱えるジレンマについて、授業のワークや仲間の温かい励ましに、癒してもらいました。日を追うごとに、互いの職場事情を相談したり、健康を気遣いあったりすることも増え、セカンドレベルならではの風景でした。

講義単元では、ヘルスケアシステム論、組織管理論、人材管理、資源管理、質管理を学び、年々と厳しさを増す看護管理者を取り巻く情勢に対応できるための基礎知識を蓄え、最新情報を知り、事象を深く読み解き概念化するスキル、論理的思考力を高め、自らの能力開発に取り組むことが研修の目的でした。また、それ以外でも、自施設の看護部の組織運営を俯瞰して理解し、諸先輩方の普段の看護管理や、看護管理者の上司より日頃指導を受けていることの意味を深く感じ取り、改めて、病院運営を支える熟練の看護管理の素晴らしさ、自分を取り巻く人材の豊かさに気づく機会となりました。私たちが、毎日、学ぶ場に安心して集えたのは、不在の間、自部署運営をサポートしてくれた上司、同僚や部下、また、家族・子供たちの協力があり、一人も欠けることなく閉講式を迎えることができたことには、感謝の思いです。来年、１年後は、看護管理実践計画書の発表会があります。今いる場所で、スタッフ一人ひとりに協力をもらいながら丁寧に取り組み、成果について、全員が揃って発表していきたいと思います。

これまでの私は、問題が発生するたびに目前のことに無我夢中で取り組んできて周りが見えなくなっていました。しかし、これからは、少し肩の力を抜いて、一息ついてセカンドで学んだことを思い出し、問題の意味を考えて行動を選んでとれるようになっていきたいと思います。そうすることで、息長く看護管理者としてありつづけられる自分でいたいと思います。

最後に、講師をはじめ、研修中に私達を支えてくださいました、田畑会長、専任教員、演習支援の諸先生方に心より感謝いたします。

令和２年秋の叙勲受章おめでとうございます。

令和2年 秋の叙勲受章おめでとうございます。

瑞宝単光章

田畑千穂子氏

元鹿児島大学付属病院
看護部副看護部長

瑞宝双光章

吉原　由美氏

元国立病院機構宮崎東病院
看護部長

特集 新型コロナウイルス感染症 第3弾 看護学校編

令和２年度看護師等養成所実習補完事業について

事業コーディネーター
吉元　恭代

新型コロナウイルス感染症の影響により医療機関等における臨地実習が困難な状況を補完するため、看護師等養成所が行う学内実習に必要な演習補助員や資機材の確保支援を行うことを目的にこの事業を実施しています。

鹿児島県から鹿児島県看護協会へ委託され、看護師等養成所が臨地実習の代替として実施する学内実習の質を担保するため、今年度 10 月より、演習補助員の派遣やシミュレーターに係る情報提供等の支援を行っています。

この度、新型コロナウィルス感染症の感染対策のため、学校現場では臨地実習から校内実習への変更を余儀なくされております。そこで学校現場の現状を取材したのでご報告いたします。

１：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校編

《学生さん達へのインタビュー》

Q：実習に行けなかった期間は？

A：４月から夏休み前までは実習に行くことができなかった。

Q：実習に行けなくなってどう思いましたか？

A：実践力の低下に繋がるのではないかと感じた。実習に行って自分たちが感染の媒介になってしまうという恐怖もあり複雑な思いだった。

Q：校内実習ではどのようなことを学びましたか？臨床実習との違いがありましたか？

A:校内実習と臨床実習との差はあまり感じなかった。クリティカルの実習では実際の手術が見学できないため先生たちがカルテを作ってくれて患者役をしてくれた。患者のような反応ではないが、対応の仕方を学ぶことができた。現場はいつも先生がいる状況ではなく、看護師に相談しながら患者の思いにも触れることができた。学内実習で行っていたことが実際の現場での経験で活かせたため力になっていたのだと感じた。多職種連携はイメージが付きにくかったため病院実習で見ることができてよかった。

《先生へのインタビュー》

Q：臨床実習が中止になったときの先生方の思いは？

A：実習と学校で学んだことの統合ができるかが心配だった。校内実習で、どんな経験ができるのか、それをどのように結び付けるか。学内でどの程度臨床に近いことができるかを考え実習評価を含めて実習要綱の見直しを行った。

Q：どのような工夫をされたか？

A：対象あっての看護であり、教員が患者役では緊張感が違う。それをいかに患者の生活や思いをイメージさせるかを考えた。精神実習では、学生に黙って精神科の看護師を呼ぶことで実習の充実を図った。教材は患者のイメージができるような視聴覚教材や DVD を集めて学生へ視聴してもらった。在宅の校内実習では学校のホールをすべてデイケア仕様にし、実際の１日の流れを作り実習を行った。夏休み中の希望者は、実習上の都合がつけば臨床実習に行かせていた。できるだけ実習に行かせることが大切であるため、実習配置の工夫を行った。

Q：学生の反応はどうでしたか？

A：学んでほしい内容は記録から見えてくる。校内実習では、学生に余裕があり課している課題以上の学習ができていた。また学生から「楽しかった、新しい発見があった」など良い反応があると嬉しかった。

2：鳳凰高等学校看護学科専門課程編

・8/31 ～実習ができるようになったが、受け入れ可能な病院が少ない。
・グループ数を増やし、期間を３週間から２週間と短くして実習を行っている。
・病院とのやり取り、調整が大変だった。（直前で断られることもあった）
・４月から実習の代わりに校内演習をしている。現場は「成人」「精神」のみ。
・毎年使用していた実習要綱を、校内演習用に領域ごとに作成しなおした。また、オンライン授業の準備も並行して行わないといけなかったため、４月～５月、教員はとても大変だった。（初体験のことで余計に苦しかった）

・専門課程は社会に出ることを考え、調整を行ったが、通常であれば10月で終わる実習が、11月中旬まで入っているので、実習と国家試験対策と同時進行で行っている。実習に出られないので、現場に出たときに動けるのか、国家試験の勉強時間がとれるのかが不安。
・臨地実習にでる前に、シミュレーターを使って校内演習を行ったが、コミュニケーション力に不安が残る。（報告・連絡・相談がうまくできない）
・学校と現場との緊張感のギャップがどうしても出てしまう。演習では緊張感を保つことが難しい。（教員が近くにいるが、知っているという安心感があるため）

【専門課程２年生：新留　千晴さん】

新型コロナウィルス感染症により、５月から予定されていた臨地実習が校内演習に変更となりました。学校自体も臨地実習を校内実習に変更するという初の試みだった為、私ももちろん、他の生徒も「臨地実習の替わりを校内演習でできるのか」と不安が大きかったことを覚えています。しかし私たち生徒のために先生方が実際の実習に近い環境や計画を立ててくださったことにより「実習の場である」と緊張感を持ちながら校内演習に臨むことができました。普段の実習では、実習生一人が１人の受け持ち患者様を受け持ちますが、校内演習ではメンバー全員で同じ患者様を受け持つことで、様々な視点から患者様を捉えることができました。また校内演習を行ったことで援助や患者様への関わり方にも自信が持てたと思います。予定外の校内演習ではありましたが、校内演習ならではの学びも多くあり、このような場を作ってくださった先生方や貴重な臨地実習を快く受けていただいた病院の方への感謝を忘れず、看護師国家試験合格に向け頑張りたいと思います。

【専門課程主任：井料　美香教員】

今年度、学校現場では、講義や臨地実習の変更など例年にない問題と向き合わなければならなかった半面、そこから新たな挑戦がありました。４月当初より、約２か月間は、リモートでの講義となりました。教員は慣れない機器との格闘であり、生徒たちは対面での講義出ないことへの不安があったようです。しかし、本校は全生徒がタブレットを持っていることもあり、質問にも対応でき、生徒の不安を軽減することができました。臨地での実習ができなくても、臨場感やアセスメント力を伸ばすためにはどうしたらよいかを悩みながら進めました。特に専門課程２年生は、卒業学年でもあり臨地実習にでられないまま医療現場へ就職することへの不安と国家試験への不安を口にする生徒も多くいました。生徒のアセスメント力向上については今回に限らず、教員間で議論し、今年度、導入したばかりの高機能シミュレーター（シナリオ）を活用しての校内演習を、また人体モデル（八重）を活用し、臨地実習で起こりうる場面を想定しながら教員が看護師役を行いながら実施しました。今年は、手探り状態で実施した内容が多くありましたが、そこから得たものの方が多く、次年度の取り組みに生かすことができそうです。「ピンチをチャンスに」‥まさしくこの言葉の通り、大変な時期だからこそ教員も生徒も乗り越えたことが達成感となり、それぞれの場で活かされていくことを期待しています。

ＳＤＧｓ普及事業に参加して

世界保健機関（WHO）と国際看護師協会（ICN）が連携し、Nursing Now キャンペーンの一環としてＳＤＧｓを展開しております。

本会と看護連盟は、鹿児島青年会議所・鹿児島市の共催で開催されましたＳＤＧｓ普及事業「私、ＳＤＧｓはじめました」に参加しました。

パネル展示では世界や鹿児島で働く看護職（看護師・助産師・保健師）の活動を紹介、体験型としては子ども達を対象に手洗い方法を一緒に確認し、風船をプレゼントしました。また、看護職へのメッセージをツリーに飾り付けました。親子連れに多くの励ましや感謝のメッセージを頂きました。

田畑会長はじめ、協会・連盟より、このメンバーで参加してきました!!

鹿児島県看護協会ブース
「新型コロナウイルス感染症への看護職の活動」

「医療従事者へエールを!!」の一人目のゆうり君「みんなでがんばれ」でした

「手洗いできるかなぁ」のコーナーで、手洗いできた子どもたちにバルンアートをプレゼント（大人気でした）

私のセカンドキャリア

パワフルage委員会委員長
原田ケイ子

セカンドキャリア年代の生きがいと社会貢献を目的に平成18年からパワフルage委員会は設置され、交流会、研修会、女性団体や患者団体の活動支援等に取り組んできました。

中でも平成30年から有償ボランティアナースの登録と活用を推進できる体制を構築できたことは大きな成果だったと思います。私自身ボランティアナースとして「西郷どん収録時」、「高校総体・国体リハーサル」、「看護学校演習補助者」等活動させていただき楽しく貴重な経験をしました。他のメンバーも新型コロナ感染症対策、県や企業等の各種イベントでの救護活動にいきいきと活動されています。このように有償ボランティアナース活動の運用が活発になったことから特別委員会としてのパワフルａｇｅ委員会は令和２年度をもって解散することが先般の理事会で決定されました。とは言え今後とも有償ボランティアナースの登録・活動の運営は看護協会事業として取り組まれます。是非、セカンドキャリアを生かされたい方は有償ボランティアナースの登録をお願いします。

また私は５月に専務理事を退任し、さぞゆっくり休めると思っていましたが５人の孫の子守り・アッシーと姶良市農園を借用しての野菜つくり、合間にゴルフと現在ゆっくりできる暇がありません。これまでなかった地域や医療関係者以外の方々とのお付き合いが増え新たな生活が始まっています。今後、一個人として看護協会を支援し社会貢献ができるよう努めたいと思っています。最後に皆様にとって令和３年が素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。

おしらせ

《お問合せ先》
〒890-0064　鹿児島市鴨池新町 21-5
公益社団法人鹿児島県看護協会　会員管理担当まで
TEL:099-256-8081　FAX0:99-256-8079
✉kakankyo@orange.ocn.ne.jp

【2020 年度の会費が未納の方へ】

- お手元に会費の振込用紙(コンビニ用)がある場合は、お早めに納付お願いいたします。
- 口座振替依頼書不備の方は、早急にご返送いただくか、県協会までご連絡をください。

【2021 年度新規入会・再入会申込み受付中！】

- 新規・再入会の方へ
  2021 年度の手続き受付け中です。
  入会金：8,000 円(初めて入会の場合)
  年会費:12,000 円(県協会 7,000 円+日看協 5,000 円)
- 継続の方へ
  「2021 年度のお知らせ」がお手元に届いていますか？
  自動継続のため、内容に変更がない場合はご提出不要です。

地区だより

南薩地区

教育委員会の活動報告

南薩地区教育委員会は、9 月に医療安全研修を開催し、講師の伊東美緒先生に、様々な制約のある現場の中で高齢認知症者の安全を守るために、どのように行動しなければならないのか、を多くの実例を交え話して頂きました。11 月は災害研修を開催し、上室真由美先生、感染管理認定看護師の長崎奈穂先生を講師に迎え、感染症対策の基礎知識や災害時、避難所での感染対策や運営の方法について最新の知見を学ぶことが出来ました。１２月は今年度より加世田保健所と合同で心のケアスタッフ養成研修会・フォローアップ研修会を開催しました。飯干紀代子先生、江口恵子先生を講師に、カウンセリング技法や倫理的な考え方、その姿勢について事例を通して学びました。

今年度は、いずれもオンライン形式にて開催しました。慣れない操作や運営の中、携わったスタッフや講師の先生方のおかげもあり、参加者からは、学びが多く実践に活かしたいとの声を多く頂きました。

今後は感染研修（新人研修）、褥瘡研修、管理者研修を予定しております。今後も南薩地区で看護業務に携わっている方々の看護の質向上に貢献出来るよう企画・運営を行っていきたいと思います。

地域の医療提供体制確保のための看護職員の派遣調整事業における取組み

南薩地区では，高齢者介護施設等から新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策についての確認・助言等の要望があったことから，南薩地区の感染管理認定看護師と南薩地域振興局（加世田保健所・指宿保健所）とが連携し，高齢者介護施設等 11 カ所の現地ラウンドを実施しました。どの施設の職員の方々も日頃の疑問を熱心に質問され，感染管理認定看護師から施設の状況に応じた助言がなされました。新型コロナウイルス感染症対策に加え、改めて基本的感染対策を確認する機会にもなりました。今後は，現地ラウンドの結果をまとめ・分析し，地域全体の感染拡大防止対策の向上に活かしていきたいと思います。

川薩地区

教育委員会の活動

委員長　園田麻利子

第４回教育研修会　　令和２年10月17日(土)　参加者　44名

テーマ：「感染管理」・「災害看護」

令和２年度川薩地区の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で１回目から３回目まで中止･延期となっています。そこで､4回目は､手指消毒･検温･ソーシャルデスタンスを確保し､「感染管理」と「災害看護」の２題の講演をしていただきました。「感染管理」は、新型コロナウイルス感染症の感染対策～今、私たちがやること～をテーマに済生会川内病院感染管理認定看護師　井上安寿子氏､「災害看護」は､大規模災害発生時の地域の連携の在り方、看護師として自分たちはどう動くか？をテーマに鹿児島純心女子大学塩満芳子氏に講演していただきました。病院勤務者や特別養護老人ホーム・訪問看護ステーションから参加があり、このテーマへの関心の高さが伺えました。「感染管理」では､看護をする中で身近なことをわかりやすく､また「災害看護」では、災害発生を想定し平時の対策・計画の重要性の講義がありました。

今回の研修が日々の看護や災害へのリスク管理につながり、役立つことを期待します。

今後の研修予定

第５回教育研修会
令和３年１月23日（土）13：30～16：00
場　所：済生会川内病院
テーマ：「事故防止に活かすコミュニケーション」～SBARと確認会話～
講　師：白岡中央総合病院情報管理部　医療安全管理課　課長　渡邊幸子　先生

地域ケアサービス委員会の活動

委員長　上床知恵子

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、全てのイベントが中止になるという事態に陥りました。本来ならば、まちの保健室や運動会、夏祭り等に従事し、地域の方との関りをもち、健康相談や生活指導を行うことを活動としていました。感染症の終息が見えず、新しい生活様式が求められる中、今後は地域ケアサービス委員会として、今までの地域の方が求めるサービスは残しつつ、専門職として感染拡大防止への指導を加えていく事が必要になると考えています。

医療安全ネットワーク委員会

６月、９月、11月、２月開催　　委員長　長井砂都美

医療安全情報ネットワーク会議

川薩地区６施設が参加し、医療安全管理担当者の情報共有と資質の向上を図ることを目的として年４回会議を開催しています。鹿児島県看護協会「医療・看護安全対策検討委員会」での検討事項の情報提供や、各施設での医療安全に関する情報交換、対策の検討などを行っております。今年度６月はコロナの影響を考慮し中止。９月「身体抑制」「転倒転落」に関する情報交換、11月「患者誤認防止対策」についての情報交換を行いました。参加施設は６施設と少ないため、今後は、地域の施設参加を促し、医療安全に関する情報交換がさらにできるように取り組む必要があると考えています。

かたらん会

地区長　　寺脇佐代子

管理者研修会　　11月13日（金）　参加者35名

当会は、看護管理者の質向上、交流を目的とした会です。今年度は「新型コロナウイルス感染症」をテーマに感染管理について、川薩保健所　健康企画課課長　五田貴子先生、川内市医師会立市民病院　感染管理認定看護師　中野智子先生を講師としてお迎えし、管理者研修会を開催しました。鹿児島県内での新型コロナウイルス感染症の動向や対応、患者や家族、職員及び施設での感染対策について学びを深めることができました。講演の後の意見交換では、陽性者への対応での注意点や、認知症の方への対応で工夫している事、発熱者への対応等、現状で困っている事があがり、講師の助言を基に情報を共有することができました。川薩地域の感染管理認定看護師のネットワーク体制、研修や現場指導での活用等紹介もでき、感染対策に対する意識が高まる有意義な研修でした。今後も地域のニーズに即した研修会を考えていきたいと思います。

姶良伊佐地区

教育委員会の活動

令和２年は、「新型コロナ感染症対策について語ろう」看護研修会を皮切りに、新人研修２回、教育研修４回を実施しました。中でも、コロナ禍の中で様々なジレンマを感じながら看護ケアに携わっている方々の気持ちを落ち着ける機会になればと、金城隆展先生による「患者の最大限を目指す看護倫理」の特別講演を開催しました。開催時期・場所・参加人数など制限がある中で工夫を重ねながらの活動となりましたが、このような時期だからこそ、姶良伊佐地区の連携が強化できるような企画を考えていきたいと思います。

委員長　平野 里美

医療安全情報ネットワーク委員会の活動

医療安全ネットワークは、年４回の情報交換を行い研修会を年１回行っています。本年度は医療安全ネットワークに参加してくださる施設も増え２７施設になりました。コロナ渦での各施設における医療安全の課題を共有し、各施設での取り組み報告やテーマ毎の勉強会が医療安全管理者として抱える問題を少しでも軽減でき現場での医療安全に対する資質の向上につながればと考えております。

委員長　川内 サユリ

地域ケアサービスの活動

地域ケアサービス委員会は、地域に根ざした看護協会活動を目指していますが、計画しておりました各地域で行われるイベントで各種測定を行い、健康相談等が中止せざるを得ない状況になりました。次年度はコロナ禍においても少しでも地域の皆様が安心した暮らしができるような企画を考えて参りたいと思います。

委員長　大田 秋美

ナースセンターだより

Vol.135

明けましておめでとうございます。

昨年は、潜在看護職の皆様へ「新型コロナウイルス感染症」拡大防止に関連する復職への呼びかけを行い、多くの看護職から協力の申出をいただきました。病院等への復職だけでなく、電話相談や宿泊療養施設での対応等、多大なご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。新しい年を迎え感染状況が終息に向かいますよう願っております。

ナースセンターでは看護職の復職支援を目的に「再就業支援セミナー」「再就業応援カフェ」などの研修事業にも力を入れて取り組んでおります。また、ナースセンター便りを活用して定期的に「看護職の働く職場」をご紹介するなど、いろいろな働き方のご提案もしております。

復職をお考えの看護職の皆様、看護職を採用したい求人施設の皆様、いつでも遠慮なくご相談ください。

訪問看護師養成研修(e ラン活用研修)

～2020 年度訪問看護師養成研修が終了～

養成研修は今年度から，e ラン活用のみの研修に変更。コロナ禍の 5 月 8 日，13 名の受講生と共にスタートしました。講義 6 日間，実習 4 日間の合計 10 日間。実習ではコロナ禍の最中，訪問看護ステーションや地域包括支援センターの方々には苦慮して頂きました。受講生は講義・実習を通して多くの学びがあり，感謝の一言です。

【受講生の声・・・研修まとめやアンケート結果より】

訪問看護の楽しさ・やりがいを♡
仲間と学び・見えてきた事!!

1)聴くスキルを高めていきたい（とにかく相手の話を聴く事)。

2)受講生間で情報交換や気づきを話すことで互いに学ぶ事が出来た。顔の見える関係が作れた。

3)実習では日頃の自分の看護や知識・技術について振り返る事が出来た。

4)訪問看護の実際を見ることで，病院内でも報告や連絡，相談が出来るようになった。(連携室勤務)

5)科目ではコミュニケーションと接遇や訪問看護概論は訪問看護師にとって，とても大切な事として学ぶ事が出来た。
　コミュニケーション技術では所作など，すぐに実践に活かせる内容だった。

6)終末期における意思決定支援の重要性や対話の大切さを改めて学んだ。

7)訪問看護過程では，いつもぶつかってしまうが看護計画や問題の捉え方･視点など学ぶ事が出来た。

8)訪問看護ステーション実習では施設から学ぶ事が多かった。違う職場を知る事でつながりが出来た。
　楽しそうに，気さくな雰囲気で仕事に取り組んで，職場の環境が良かった。
　スタッフの取り組みや支援方法が素晴らしかった。
　所長さんの利用者への強い思いが伝わった，同行訪問で色々な経験が出来た。・・など。

9) e ラン活用についてはゆっくり学習出来た，いつでも繰り返し，振り返る事が出来た。
　場所を選ばす，自分の時間でできた。動画が入っているので理解しやすかった，

10)集合研修がもっとあった方がよい，集合でより知識を深める事が出来る。
　自分の学びたい事など知識を深める事が出来る。

11)コミュニケーションと接遇では関係性や声掛けなど
　いつも戸惑うことが多い。大切なことが学べた。
　概論では，話に引き込まれた。・・・など。

コミュニケーション力は訪問看護に必要だ！大切だ！

視点は色々！自分の関わり方目指す方向が見えてきた

『その人らしさ』を考える時間になった

看護職の働く職場紹介　NO2

今回は、看護職の働く職場として「助産院」をご紹介いたします。
日置市で『いちご助産院』を開業し、アットホームな雰囲気の中で
産前産後ケアから地域の親子のサポートまで幅広く活躍しておられる
助産師　川畑由佳子さんにお話を伺いました。

いちご助産院
〒899-2505
日置市伊集院町猪鹿倉 484-9
助産師　川畑　由佳子

～助産院でのお仕事についてお聞かせください～

鹿児島県内には有床の助産院が５カ所あります。
妊婦健診から継続して妊婦さんと関わり、妊婦さんやご家族と共に赤ちゃんの誕生を楽しみに待ち、赤ちゃんが生まれたい時に、生まれたいように生まれてくるお手伝いをしています。継続して関わることで個別性にも深く触れることが出来、その人らしさに寄り添えることが魅力です。学生の頃の継続ケースの実習を仕事として行っているような感じと言えばわかりやすいかもしれません。
基本的には緊急時以外の医療行為は行わないので、産む方とお腹の赤ちゃんが持っている力がうまく出せるように環境を整え、寄り添ってケアしています。
フリースタイルでの出産やお灸・アロマなどのその方の力を引き出すケアが特徴ですが、何よりも妊娠中からお産、産後を通して、産む方が赤ちゃんと自分の体を感じて過ごせるように関わり、その力を尊重して向き合うことを大切にしています。お産でも母乳育児でも、母と子がお互いの力を引き出し合っている姿には感動します。

～地域ではどのような活動をしておられるのでしょうか～

現在では各自治体が産後ケア事業を立ち上げたことにより、宿泊型、デイケア型、日帰り型など産後に重点を置いたケアも助産院や地域の助産師を中心に行われています。地域における助産師の活動は、産後の訪問や健診、育児相談などがあります。産後の訪問では、その方の生活の場の子育て環境を整え、母子の愛着形成を促すことから始めています。母と子にじっくり向き合うことで、それぞれの家庭での子育てのスタートに寄り添っています。

～地域全体での子育支援の取り組みなどあるのでしょうか～

保健師などの他職種との連携も図りながら、その方が地域の中で心も体も健康な状態で子育てできるようお手伝いしています。
地域別に一人の助産師が担当している場合が多いので、出産の度にお母さんと再会し、生まれた赤ちゃんだけでなく上の子どもさんも含めて親子に寄り添うことが出来ています。継続して関わった親子の成長を見守ることができるのがうれしく、とても楽しいです。
子育てサロンの企画運営もあり、地域のお母さん達が集う場として情報交換に留まらず、子育ての仲間として、育てる力を引き出し合っていく場となるよう見守っています。お産や子育てへの不安が大きい現状においては、地域で継続して寄り添える助産師の力が是非とも必要だと思っています。

子育てサロンの風景

後記：お話を伺い、次代を担う子供たちの成長を地域で支えるために助産師の役割はとても大きいと感じました。
これからも助産師としてお母さんや赤ちゃん、そのご家族に寄り添いながら地域に根差した活動を続けて行かれることを期待しております。

再就業支援セミナー報告

再就業にチャレンジ！もう一度、看護の仕事を！

11 月 11 日（水）～13 日（金）の 3 日間、看護研修会館で「再就業支援セミナー」を開催しました。19 名の受講生が鹿児島市、日置市、薩摩川内市、霧島市、姶良市から参加し、講義や演習を通して意欲を高め、再就業への一歩を踏み出しました。受講後の就業希望については、9 割の方が 1 年以内の就業を希望し、そのうち 7 割がパートタイムの希望、また勤務形態では 8 割が「日勤」を希望しています。受講後の状況は 12 月末現在で、5 名が病院やデイサービス等に就業されました。他の受講生も自分のペースで就職活動を行っています。

【受講生の状況】

※就業中の 1 名を除く計 18 名の内訳　（人）

	3 年未満	3~5 年未満	5~10 年未満	10~15 年未満	15~20 年未満	20 年以上
離職年数	6	3	3	3	2	1
経験年数	5	2	2	3	3	3

「救急時の対応」演習

受講生の感想

- 病院等でまた働きたいという気持ちがもっと強くなった。
- 初心に帰って学び直すことができ、どの講義もとてもわかりやすくて参考になった。
- 実際に働けるかどうか不安だったが、一緒に受講した人の話を聞いて私も頑張ろうと思った。焦らず自分に合う職場を見つけて働きたい。

「医療機器の取扱い」講義風景

潜在助産師再就業支援セミナー

令和 2 年度の潜在助産師再就業支援セミナーが 12 月 6 日から 2 月 14 日までの間の 5 日間の予定で開講しました。助産師として再就業を目指す 5 名の受講生が、新人助産師 14 名と一緒にマタニティケアに関する知識・技術・態度を学んでいます。年齢や助産師としてのブランクも様々ですが、最新の産科医療に触れ、同じような想いの助産師とコミニケションを取ることで、再就業に関する不安な気持ちがほぐれていくように感じます。5 日間の研修は始まったばかりですが、それぞれの受講目的が達成でき、再就業に向けてのきっかけとなりますよう願っております。

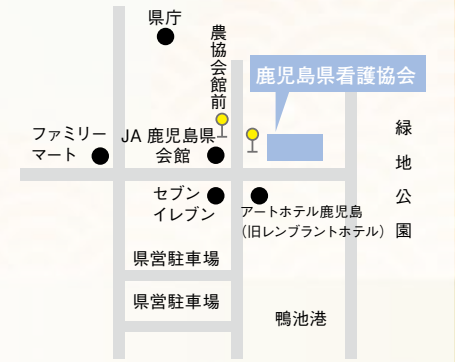
演習の風景

【離職看護師等届出制度「とどけるん」届け出状況】

2015年10 月～2020 年 12 月までの届出状況
全国 132,999 名　鹿児島県　2,273 名
2020 年 10 月の届出(鹿児島県)　21 名
2020 年 11 月の届出(鹿児島県)　19 名
2020 年 12 月の届出(鹿児島県)　21 名

【e ナースセンター登録有効求人・有効求職状況】

	9 月	10 月	11 月	12 月
求人数(人)	755	833	808	858
求職者数(人)	398	385	380	380
就業者数(人)	39	56	26	29



鹿児島県ナースセンター

〔看護師等無料職業紹介所 46-ム-010002〕
相談日:月～金　9:00～12:00　13:00～16:00
住　所:〒890-0024　鹿児島市鴨池新町 21-5
TEL:099-256-8025　FAX:099-256-8079
E メール：kagoshima@nurse-center.net

理事会報告

令和２年度　第５回　理事会
日時：令和２年 11 月 21 日（土）13:30 ～ 16:08
16 名出席

協議事項

1　基本方針
　1）令和２年度事業中間評価について
　2）令和３度の重点事業及び事業計画について
2　事業推進に関する事項
　1）事業検討会の進め方について
　2）特別委員会「パワフル age 委員会」の廃止について
　3）第 57 回全国献血運動推進大会について
3　管理的事項
　1）令和３年度県看護協会の開催場所について
4　会員支援
　1）日本看護協会名誉会員候補者の推薦について
　2）日本看護協会協会長表彰者の推薦について

報告事項

1　基本方針
　1）2020 年度地区別法人会及び九州地区法人会員連絡会について
2　事業推進に関する事項
　1）教育事業について
　2）看護職員就業相談事業について
　3）地域の医療提供体制確保のための看護職員の派遣調整事業について
　4）新型コロナウイルス感染症の影響に伴う病院実習等の負担軽減のための看護師養成施設等における実習補完事業について
　5）研修システムについて
　6）災害支援ナースの登録促進について
　7）SDGs の取組みについて
　8）中間監査結果について
　9）令和２年度中間収支について
3　管理的事項
　1）訪問看護ステーションかごしま運営委員会について
　2）理事会・運営委員会議事録について
4　会員支援
　1）令和２年度鹿児島県看護協会会員数

その他

1）令和２年 12 月 12 日（土）午前 10 時～　事業検討会

※　毎回、日本看護協会理事会報告、地区長情報交換会報告を口頭で、職能委員会報告、地区報告、委員会報告他団体会議報告、県外出張報告を書面で行っています。

看護かごしま Vol.181 の感想をいただきました

ＳＤＧｓへの協会のコミットメントがいいですね。こういう理念を堅持することがプロ集団だと思います。ILO の掲げるディーセントワークが、あらゆる看護場面で実現されるように、社会・政治へ働きかけてほしいです。また離島医療のある鹿児島を実感した、新型コロナ感染症への対応事業の報告、興味深いです。どんな生活環境でも医療アクセス、健康を守る権利が保障されるような活動が、全国のロールモデルになりますように願っています。

編集後記

広報委員会キャラクター
「ニャン護師」

新しい生活様式で迎えた新年。
SDGs 事業で頂いたたくさんのコメントを力に１歩ずつ進んで、この困難を乗り越えていきましょう
楽しいことで、ギュウギュウの一年になりますように・・・・

広報委員一同

看護専門職として社会に貢献しよう　会員の増加と福祉の向上のため活動しよう

公益社団法人
鹿児島県看護協会
Kagoshima Nursing Association
鹿児島市鴨池新町21-5
TEL.099-256-8081　FAX.099-256-8079
URL　http://k-kango.jp
E-mail　kakankyo@orange.ocn.ne.jp